



株式会社 **大気社**

この写真は大気社の海外拠点があるアメリカの世界遺産、
グランド・キャニオン国立公園です。

2020年3月期(2019年度)

第2四半期決算説明会資料

2019年11月15日

Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

本日の説明内容

I. ご挨拶

代表取締役社長執行役員

加藤 考二

II. ・2020年3月期 第2四半期決算説明
・中期経営計画の各戦略における取組み

取締役常務執行役員 管理本部長

中川 正徳

III. 質疑応答

1. 上期の市場環境と業績
2. 通期業績予想

社長の加藤でございます。

本日は、弊社の決算説明会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

私からは、上期の市場環境と業績、そして通期業績の見通しについてご説明させていただきます。

1. 上期の市場環境と業績

1 上期の市場環境と業績

上期の市場環境

国内市場

米中貿易摩擦などの影響による不透明感が続いているものの、電子部品メーカーなどによる投資や、首都圏におけるオフィスビルの建設投資など、需要は好調に推移。

海外市場

景気の減速感が強まっているものの、北米においては自動車メーカーによる需要が好調に推移。

まず上期の当社グループにおける市場環境につきましては、国内市場は米中貿易摩擦などの影響による不透明感が続いているものの、電子部品メーカーなどによる投資や、首都圏におけるオフィスビルの建設投資など、需要は好調に推移しました。

一方、海外市場は、景気の減速感が強まっているものの、北米においては自動車メーカーによる需要が好調に推移しました。

1 上期の市場環境と業績

上期の連結業績

単位：億円

	期初予想	2019.9 実績	差異
受注工事高	1,112	1,184	72
完成工事高	1,106	1,049	-56
経常利益	64	76	12
(同率)	5.8%	7.3%	1.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	42	53	11
(同率)	3.8%	5.1%	1.3%

- 受注工事高は、環境システム事業の国内が寄与し、全社では期初予想を上振れ。
- 完成工事高は、塗装システム事業の受注が想定を下回った影響などにより、期初予想を下振れ。
- 一方、収益性が期初の想定より改善したことにより、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益については、期初予想を上振れ。

そのような状況のもと、上期の連結受注工事高についてですが、環境システム事業における国内での受注が寄与し、全社では期初予想を上回りました。

完成工事高は、塗装システム事業の受注が想定を下回った影響などにより、期初予想を下回りました。

一方、収益性が期初の想定より改善したことにより、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益については、期初予想を上回る結果となりました。

2. 通期業績予想

2 通期業績予想

通期の連結業績予想

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期予想
受注工事高	1,184	1,213	2,398
完成工事高	1,049	1,340	2,390
経常利益	76	76	153
(同率)	7.3%	5.7%	6.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	53	43	97
(同率)	5.1%	3.2%	4.1%

【市場環境の見通し】

国内市場

- 国内市場は、オフィスビル需要は再開発案件、および旧耐震基準や旧式化したビルの建て替え需要など、底堅く推移する見込み。
- 産業空調分野では、電子部品メーカーは、一時的な製品需要の鈍化に合わせ、リニューアル投資は手控える可能性があるも、5Gなど今後の成長が期待される分野への新設投資を継続する見込み。

海外市場

- 海外市場は景気減速に伴い、環境システム事業においては、日系メーカーによる設備投資回復の見通しについて不透明感。塗装システム事業においても、自動車メーカーによる増産投資への影響に懸念。

⇒市場環境の見通しを勘案し、通期業績予想は期初予想を据え置き

続いて、通期の業績予想についてですが、
市場環境の見通しとしては、国内市場は、オフィスビル需要は再開発案件、および旧耐震基準や旧式化したビルの建て替え需要など、底堅く推移する見込みです。

産業空調分野では、電子部品メーカーは、一時的な製品需要の鈍化に合わせ、リニューアル投資は手控える可能性があるものの、5Gなど今後の成長が期待される分野への新設投資を継続すると見えています。

一方、海外市場は景気減速に伴い、環境システム事業においては、日系メーカーによる設備投資回復の見通しについて不透明感があります。

また、塗装システム事業においても、自動車メーカーによる増産投資への影響が懸念されます。

このような状況のもと、上期の受注工事高と各利益項目は期初予想を上回りましたが、今後比較的工期の短いリニューアル案件の減少や自動車塗装案件の出件の期ズレなどが発生するリスクを考慮し、通期業績予想については据え置くこととしました。

引き続き中期経営計画の基本方針に則り、各施策を着実に実行し、今期の業績達成を目指してまいります。

なお、今回から中計の各戦略における取組みについてもご案内することにしました。この後、管理本部長の中川より、決算説明に続いて最後に触れさせていただきます。私からのご説明は以上となります。



1. 2020年3月期（2019年度） 第2四半期決算説明

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ① 2020年3月期第2四半期決算ハイライト | ④ 主な受注工事・完成工事・繰越工事 |
| ② 環境システム事業の業績 | ⑤ 2020年3月期の業績予想 |
| ③ 塗装システム事業の業績 | ⑥ 株主還元 |

2. 中期経営計画（2019年度～21年度）の各戦略における取組み

1. 業績数値等は原則、連結ベースです。個別ベースの場合のみ、各ページのタイトルに（個別）と記載しています。
2. 業績数値等は原則、外部顧客に対する取引金額となっており、セグメント別の営業利益・経常利益についてのみ、内部取引高を含む数値となっております。
3. 業績予想数値は、発表日現在において、入手可能な情報に基づき推計した見込みです。経済動向、業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度の改正、その他多様なリスクや不確実性を含んでいます。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

1. 2020年3月期（2019年度） 第2四半期決算説明

管理本部長の中川です。

これより、2020年3月期上期決算につきましてご説明いたします。

では、次のページ11ページをご覧ください。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

1-①.事業別受注工事高（前年同期比）

単位：億円

	2018.9	2019.9	増減
受注工事高	1,185	1,184	△ 0
(うち国内)	(756)	(666)	(-90)
(うち海外)	(428)	(518)	(89)
環境システム事業	884	786	-98
ビル空調	252	235	-16
産業空調	632	550	-82
(うち国内)	(443)	(360)	(-83)
(うち海外)	(188)	(189)	(1)
塗装システム事業	300	398	97
(うち国内)	(60)	(69)	(9)
(うち海外)	(240)	(328)	(88)

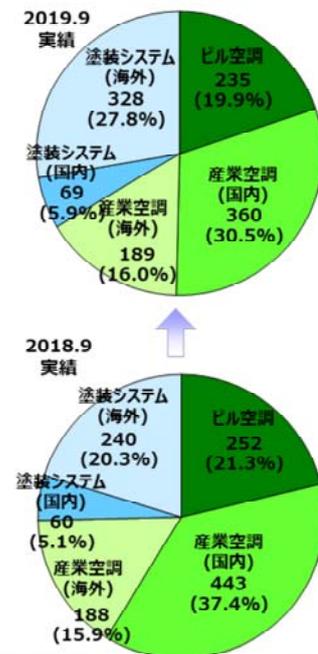
（環境システム事業）

・産業空調の国内は前年同期に大型案件の受注があったことにより反動減。

（塗装システム事業）

・北米で受注を伸ばし増加。

事業別構成



11ページは事業別の受注工事高を前年同期比でまとめています。

全社としましてはほぼ横ばいの、1,184億円となりました。

そのうち、環境システム事業は国内の産業空調分野において、電子部品メーカーによる需要は好調に推移したものの、前年同期に大型案件の受注があったことによる反動減となり、98億円減少し、786億円となりました。

また、塗装システム事業は、北米で受注を伸ばし97億円増加し、398億円となりました。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

1-②. 事業別受注工事高（予想比）

単位：億円

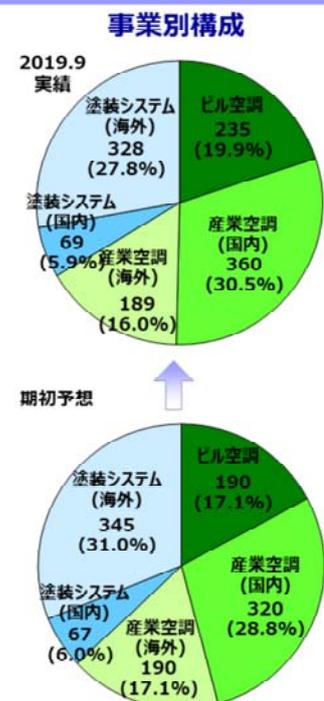
	期初予想	2019.9 実績	差異
受注工事高	1,112	1,184	72
（うち国内）	（577）	（666）	（89）
（うち海外）	（535）	（518）	（-16）
環境システム事業	700	786	86
ビル空調	190	235	45
産業空調	510	550	40
（うち国内）	（320）	（360）	（40）
（うち海外）	（190）	（189）	（△0）
塗装システム事業	412	398	-13
（うち国内）	（67）	（69）	（2）
（うち海外）	（345）	（328）	（-16）

（環境システム事業）

・国内のビル空調と産業空調の伸びが寄与し上振れ。

（塗装システム事業）

・受注計画案件の期ズレなどが影響し下振れ。



12ページは同じく受注工事高について、期初予想比で示しております。

全社では、期初予想を72億円上回りました。

そのうち、環境システム事業は国内のビル空調と産業空調の伸びが寄与し、期初予想を86億円上回りました。

また、塗装システム事業は、上期受注計画案件の期ズレなどが影響し、13億円下回る結果となりました。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

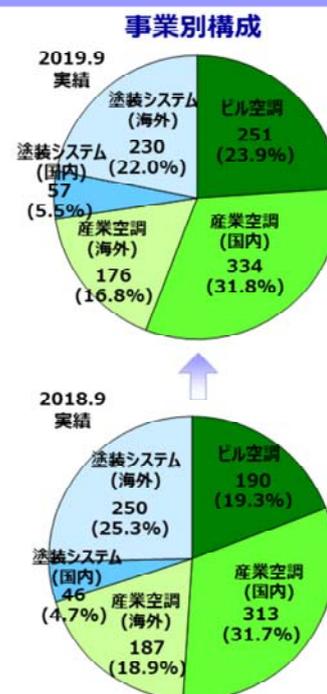
2-①. 事業別完成工事高（前年同期比）

単位：億円

	2018.9	2019.9	増減
完成工事高	988	1,049	60
（うち国内）	(550)	(642)	(91)
（うち海外）	(437)	(407)	(-30)
環境システム事業	691	761	70
ビル空調	190	251	60
産業空調	500	510	9
（うち国内）	(313)	(334)	(20)
（うち海外）	(187)	(176)	(-11)
塗装システム事業	297	288	-9
（うち国内）	(46)	(57)	(10)
（うち海外）	(250)	(230)	(-19)

（環境システム事業）

・海外ではタイなどで減少したものの、国内においてはビル空調分野で首都圏の再開発案件の出来高が伸びたことにより、大きく増加したことに加え、産業空調分野も増加したことから、前期比で増加。



13ページでは事業別完成工事高を前年同期比で示しております。

全社では60億円増加し、1,049億円となりました。

そのうち、環境システム事業は海外ではタイなどで減少したものの、国内においてはビル空調分野で首都圏の再開発案件の出来高が伸びたことにより、大きく増加したことに加え、産業空調分野も増加したことから、事業部全体では70億円増加し761億円となりました。

一方、塗装システム事業は9億円減少し288億円となりました。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

2-②.事業別完成工事高（予想比）

単位：億円

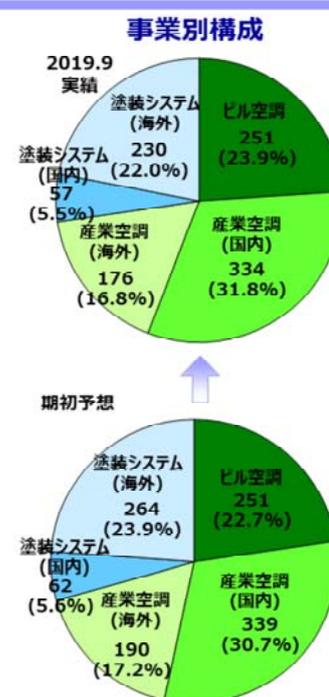
	期初予想	2019.9 実績	差異
完成工事高	1,106	1,049	-56
（うち国内）	(652)	(642)	(-9)
（うち海外）	(454)	(407)	(-46)
環境システム事業	780	761	-18
ビル空調	251	251	0
産業空調	529	510	-18
（うち国内）	(339)	(334)	(-4)
（うち海外）	(190)	(176)	(-13)
塗装システム事業	326	288	-37
（うち国内）	(62)	(57)	(-4)
（うち海外）	(264)	(230)	(-33)

（環境システム事業）

・産業空調において想定を下回り、期初予想を下振れ。

（塗装システム事業）

・受注工事高が期初予想を下回ったことなどにより、期初予想を下振れ。



14ページは同じく完成工事高を予想比でまとめています。

全社では、期初予想を56億円下回りました。

そのうち、環境システム事業は産業空調において想定を下回り、全体では期初予想を18億円下回りました。

また、塗装システム事業も、受注工事高が期初予想を下回ったことなどにより、全体では期初予想を37億円下回りました。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

3-①. 事業別利益（前年同期比）

単位：億円

	2018.9	2019.9	増減
営業利益	33	75	41
(同率)	3.4%	7.2%	3.8%
環境システム事業	62	72	9
(同率)	9.1%	9.5%	0.4%
塗装システム事業	-27	5	33
(同率)	-9.3%	1.9%	11.2%
経常利益	38	76	38
(同率)	3.9%	7.3%	3.4%
環境システム事業	65	74	9
(同率)	9.4%	9.8%	0.4%
塗装システム事業	-28	5	33
(同率)	-9.5%	1.8%	11.4%

（環境システム事業）

・国内市場の豊富な需要の取り込みによる完成工事高の増加と、採算性重視の受注活動やコスト削減が寄与。

（塗装システム事業）

・前年同期は北米のプロジェクトで採算悪化が発生。

15ページは事業別利益を前年同期比でまとめています。

経常利益は全社ベースでは38億円の増加となり、76億円となりました。

そのうち、環境システム事業は、国内市場の豊富な需要を取り込んだことによる完成工事高の増加に加え、採算性重視の受注活動やコストダウンに取り組んでまいりました結果、経常利益は9億円増加し、74億円となりました。

塗装システム事業は、前年同期は北米のプロジェクトで採算が悪化した影響がありましたが、今期は5億円となりました。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

3-②. 事業別利益（予想比）

単位：億円

	期初予想	2019.9 実績	差異
営業利益	59	75	16
（同率）	5.3%	7.2%	1.9%
環境システム事業	61	72	11
（同率）	7.8%	9.5%	1.7%
塗装システム事業	3	5	2
（同率）	0.9%	1.9%	1.0%
経常利益	64	76	12
（同率）	5.8%	7.3%	1.5%
環境システム事業	63	74	11
（同率）	8.1%	9.8%	1.7%
塗装システム事業	3	5	2
（同率）	0.9%	1.8%	0.9%

・両事業とも完成工事高は期初予想を下回ったもの、収益性の向上により経常利益は期初予想を上振れ。

16ページでは同じく利益について予想比でまとめています。

経常利益については、全社では期初予想を12億円上回りました。

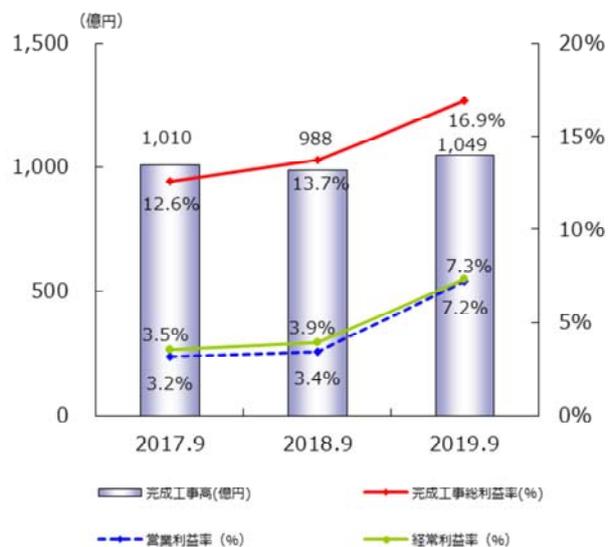
両事業とも完成工事高は期初予想を下回ったもの、収益性の向上により経常利益は期初予想を上回りました。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

4. 損益計算書

単位：億円

	2017.9	2018.9	2019.9
完成工事高	1,010	988	1,049
完成工事総利益	126	135	177
(同率)	12.6%	13.7%	16.9%
販管費	94	101	102
(同率)	9.4%	10.3%	9.7%
営業利益	31	33	75
(同率)	3.2%	3.4%	7.2%
経常利益	35	38	76
(同率)	3.5%	3.9%	7.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	22	9	53
(同率)	2.3%	0.9%	5.1%



17ページは、3ヶ年の業績の推移を表しています。ご参照ください。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

5. 報告セグメントごとの完成工事高及び経常利益

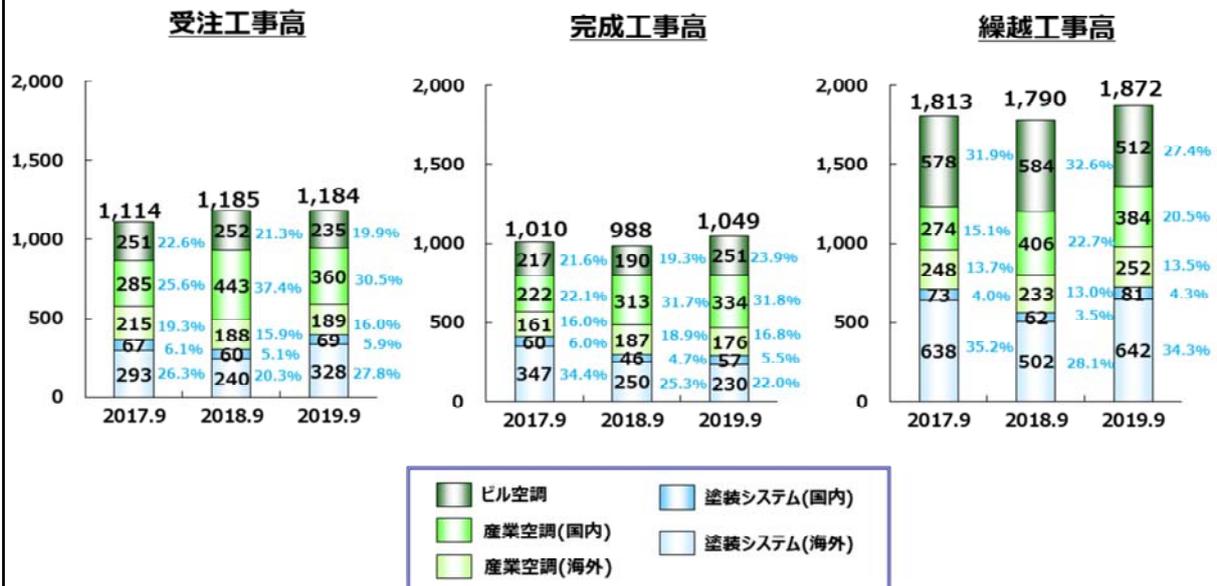


18ページは先ほどご説明しました事業ごとの完成工事高、経常利益額の推移をグラフで示しています。ご参照ください。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

6. 受注工事高／完成工事高／繰越工事高

単位：億円



19ページは、受注工事高・完成工事高・繰越工事高の事業分野ごとの内訳と推移を示しております。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

7. 海外完成工事高の推移(施工地別)



備考：当セグメントデータは、外部顧客への売上高のみの数値です。
 ●主な国または地域
 ・東南アジア - - シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、他
 ・東アジア - - - 台湾、韓国
 ・北米 - - - アメリカ、カナダ、メキシコ
 ・その他地域 - - - ロシア、南米、他

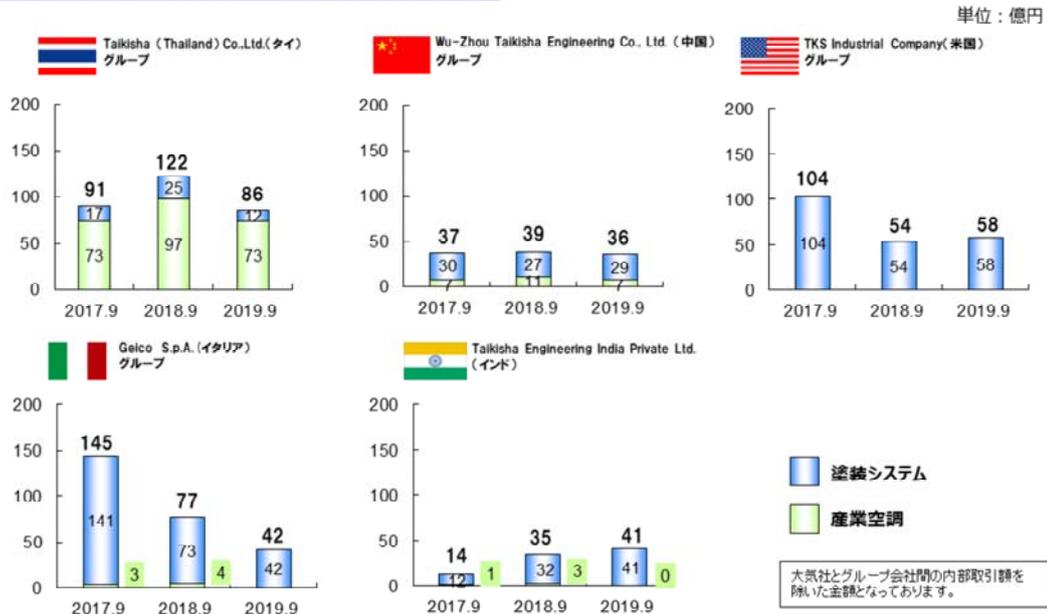
20ページは、海外の完成工事高の推移についてです。

左のグラフは国内海外の内訳と海外比率の推移を示しています。

国内市場における好調な受注に伴い、オレンジ色の折れ線で示す海外比率は減少傾向にあり、今期は前年同期の44.3%より5.5ポイント減少し、38.8%となりました。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

8. 海外主要5社の完成工事高の推移



21ページは、海外主要5社の完成工事高の推移を示しております。

米国子会社の2017年度上期と、Geico社の2017年度上期および2018年上期は、それぞれ北米における自動車塗装の大型案件が寄与したため高い水準となっています。

1 2020年3月期第2四半期決算ハイライト

9. 貸借対照表

単位：億円

科目	2019.3	2019.9	増減
流動資産	1,689	1,582	-107
現金預金	521	344	-176
受取手形・完成工事未収入金	1,047	1,036	-10
有価証券	10	28	18
未成工事支出金及び 材料貯蔵品	32	34	2
その他	83	140	56
貸倒引当金	-4	-2	2
固定資産	541	521	-19
有形・無形固定資産	149	145	-4
投資有価証券	293	276	-17
その他	98	99	1
貸倒引当金	-0	-0	0
資産合計	2,230	2,103	-127

科目	2019.3	2019.9	増減
流動負債	987	874	-113
支払手形・工事未払金等	558	493	-64
未成工事受入金	147	180	32
工事損失引当金	4	3	-0
その他	277	196	-80
固定負債	106	103	-2
負債合計	1,094	978	-116
純資産	1,136	1,125	-10
資本金	64	64	0
資本剰余金	72	50	-22
利益剰余金	849	881	31
自己株式	-24	-25	-1
其他有価証券評価差額金	118	107	-10
繰延ヘッジ損益	-0	0	0
為替換算調整勘定	1	0	-1
退職給付に係る調整累計額	5	3	-2
非支配株主持分	48	44	-4
負債純資産合計	2,230	2,103	-127

・これまで51%であったEncore社に対する持分を100%に引き上げた。
この持分の追加取得にともない、資本剰余金が22億円減少。

22ページは連結の貸借対照表となります。

この度、これまで51%であったオンコア社に対する持分を100%に引き上げました。

この持分の追加取得にともない、資本剰余金が2019年3月末の72億円から50億円へと22億円減少しております。

【備考】

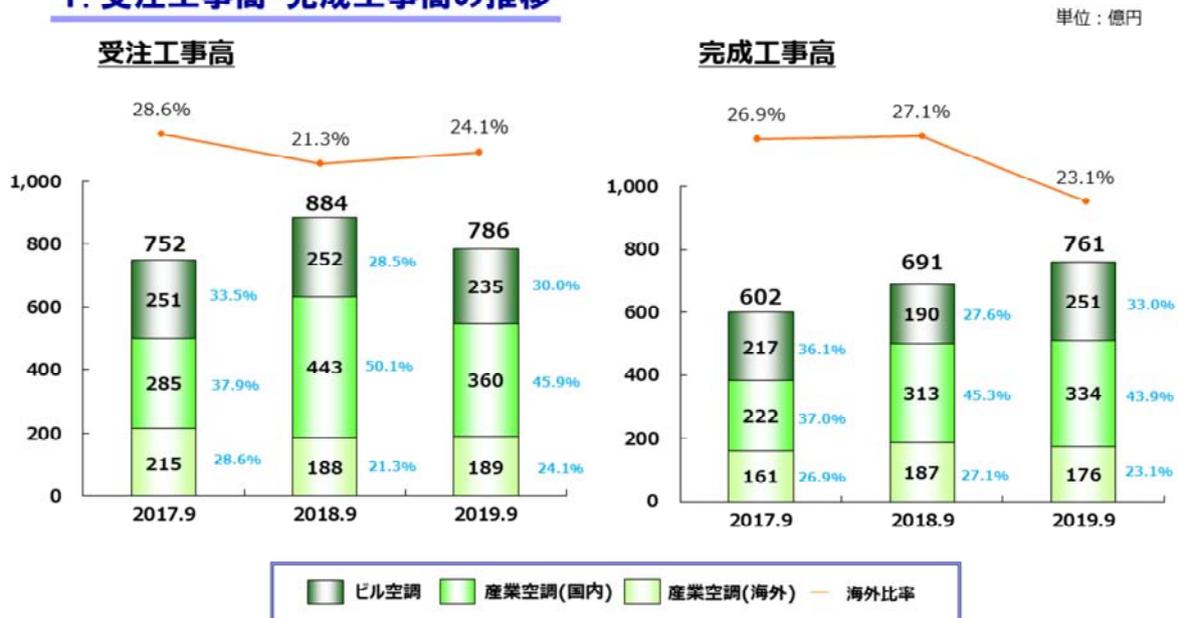
持分の新規取得時と追加取得時の会計処理の違い

追加取得時は、新規取得時と異なり、持分取得の対価と、取得時のオンコア社の純資産とののれん相当の差額は「資本剰余金」として純資産から差し引かれる。（負ののれんの場合は計上される）

新規取得時は、持分取得の対価と取得時の純資産との差額は、「のれん」として資産に計上される。

2 環境システム事業の業績

1. 受注工事高・完成工事高の推移



23ページからは、環境システム事業の業績についてご説明いたします。

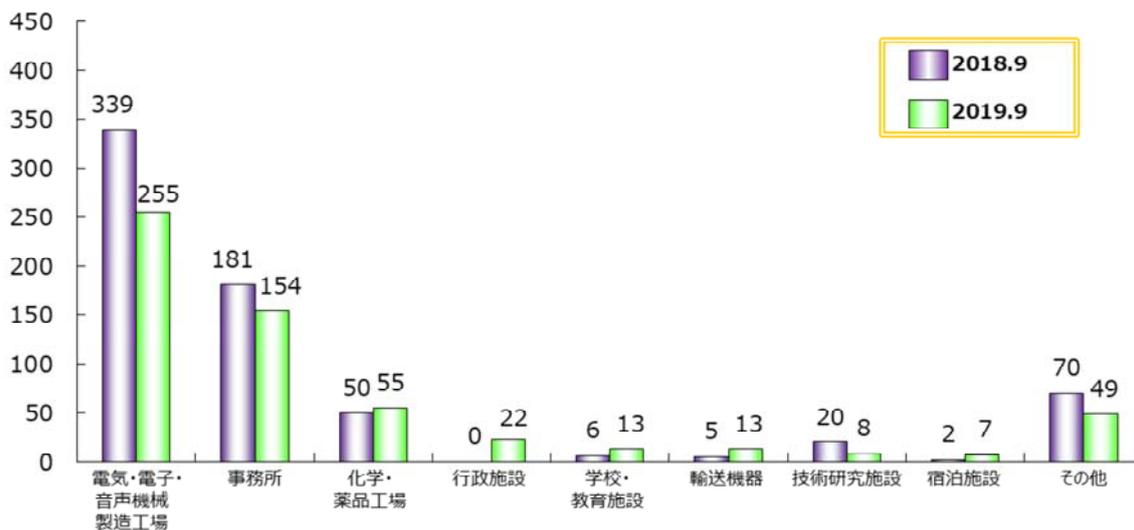
左のグラフは受注工事高、右のグラフは完成工事高について事業分野別に推移を示しております。

そのうち、完成工事高は国内の伸びが寄与し、右肩上がり推移しております。

2 環境システム事業の業績

2. 市場種別受注状況(個別)

単位：億円



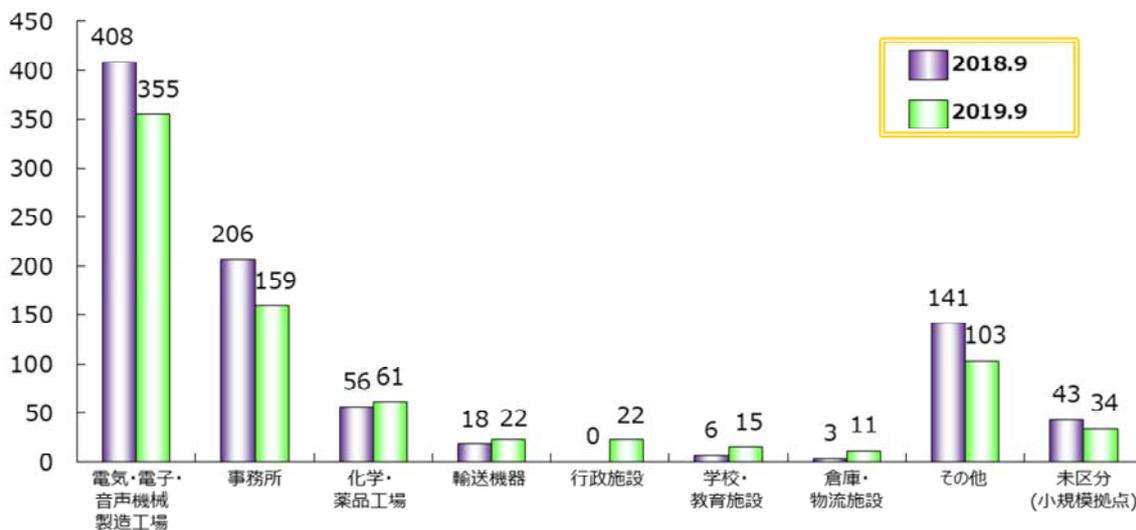
24ページは、「個別」の市場種別受注状況となります。

「電気・電子」分野は前年同期に大型案件の受注があったことによる反動減となりました。

2 環境システム事業の業績

3. 市場種別受注状況(連結)

単位：億円

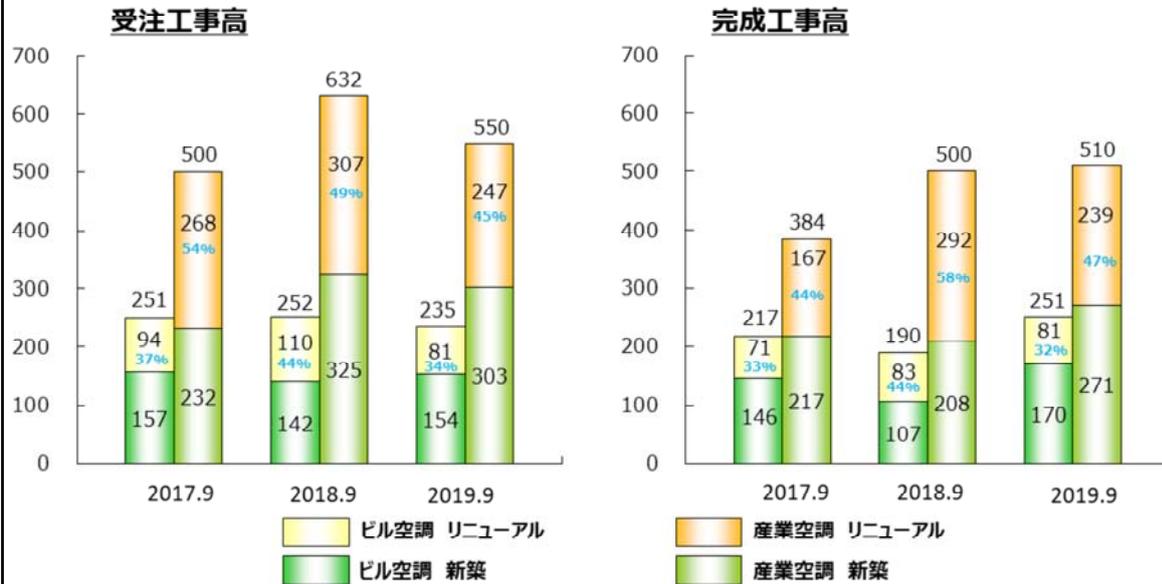


25ページは、環境システム事業の「連結」の市場種別受注状況となります。
ご参照ください。

2 環境システム事業の業績

4. リニューアル工事の推移(連結)

単位：億円
%：リニューアル比率

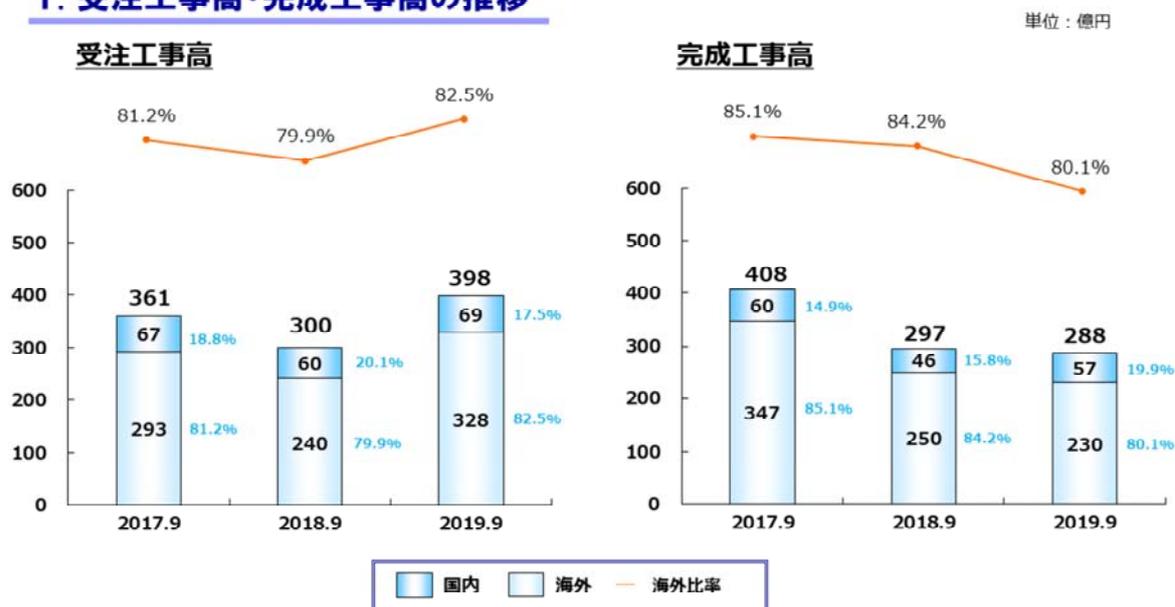


26ページはリニューアル工事の推移です。

受注工事高については、産業空調では、前年同期までは主に電子部品メーカーにおける製品需要の拡大に合わせたリニューアル投資が旺盛でしたが、今期はその反動減となりました。

3 塗装システム事業の業績

1. 受注工事高・完成工事高の推移



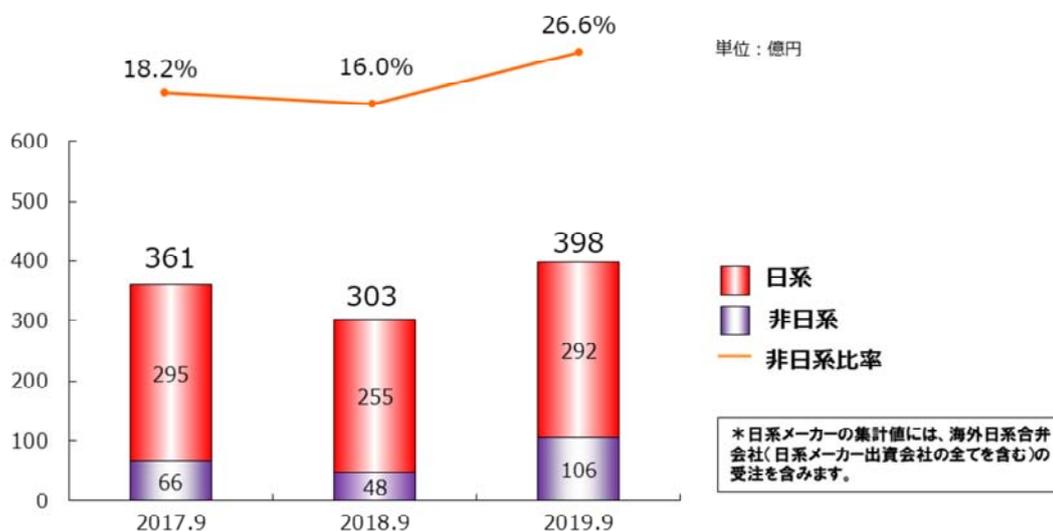
27ページからは塗装システム事業についての説明となります。

受注工事高は、今期は北米で受注が伸びたことにより、海外比率が高まりました。

また、完成工事高については、2017年度は米国子会社と、Geico社の北米における自動車塗装の大型2案件が寄与し高い水準でしたが、2018年度、2019年度はその反動減となっております。

3 塗装システム事業の業績

2. 非日系メーカー受注工事高比率



28ページは非日系自動車メーカーからの受注工事高比率についてです。

北米において非日系案件の受注が伸び、非日系比率は前年同期比で10.6ポイント増の26.6%となりました。

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

1. 5億円以上の受注工事 全31件 (610億円)

5億円以上の件数 (工事・市場種別)				
受注工事高 合計31件 (610億円)	国内 311億円	18件	事務所	2件
			行政施設	1件
			学校・教育施設	1件
			宿泊施設	1件
			電気・電子	8件
			化学・薬品・石油製品	2件
			輸送機械	1件
			倉庫・物流施設	1件
			自動車	1件
	海外 298億円	13件	電気・電子	4件
			その他	2件
			自動車	7件

29ページから31ページは計上金額が5億円以上となった受注・売上案件と、10億円以上の繰越案件についてまとめております。ご参照ください。

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

2. 5億円以上の**完成工事** 全40件 (450億円)

5億円以上の件数（工事・市場種別）				
完成工事高 合計40件 (450億円)	国内 317億円	25件	事務所	8件
			医療・福祉施設	2件
			文化施設	1件
			学校・教育施設	1件
			駅・空港施設	1件
			電気・電子	8件
			製鉄機械	1件
			技術研究施設	1件
			化学・薬品	1件
			自動車	1件
	海外 132億円	15件	電気・電子	3件
			自動車	11件
			鉄道	1件

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事
3. 10億円以上の繰越工事 全37件 (1,073億円)

10億円以上の件数 (工事・市場種別)			繰越工事	内 2019年度 完成予定	
繰越工事高 合計37件 (1,073億円)	国内 546億円	23件	事務所	9件	
			文化施設	1件	
			行政施設	1件	
			電気・電子	7件	1件
			化学・薬品	1件	
			輸送機械	1件	
			自動車	1件	
	海外 526億円	14件	建設機械	1件	
			自動車部品	1件	1件
			商業施設	1件	
			電気・電子	4件	1件
			自動車	9件	

5 2020年3月期業績予想

事業別予想値

単位：億円

	2019.3									2020.3								
	環境システム			塗装システム			全社			環境システム			塗装システム			全社		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(E)	通期(E)	上期	下期(E)	通期(E)	上期	下期(E)	通期(E)
受注工事高	884	701	1,585	300	532	833	1,185	1,233	2,418	786	823	1,610	398	389	788	1,184	1,213	2,398
完成工事高	691	800	1,491	297	464	762	988	1,265	2,254	761	843	1,605	288	496	785	1,049	1,340	2,390
営業利益	62	68	131	-27	42	14	33	106	140	72	61	134	5	15	21	75	70	146
経常利益	65	70	135	-28	45	16	38	112	150	74	62	137	5	15	21	76	76	153
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	-	-	-	9	79	88	-	-	-	-	-	-	53	43	97

① 2019年3月期上期決算為替レート：1USD=109.17円、1ユーロ=131.27円、1タイバツ=3.42円

② 2020年3月期上期決算為替レート：1USD=110.11円、1ユーロ=124.47円、1タイバツ=3.48円

③ 2020年3月期想定為替レート：1USD=108.00円、1ユーロ=121.38円、1タイバツ=3.39円

①と②の為替差による影響 完成工事高：△5.8億円、経常利益：+0.2億円

②と③の為替差による影響 完成工事高：+8.7億円、経常利益：+0.3億円

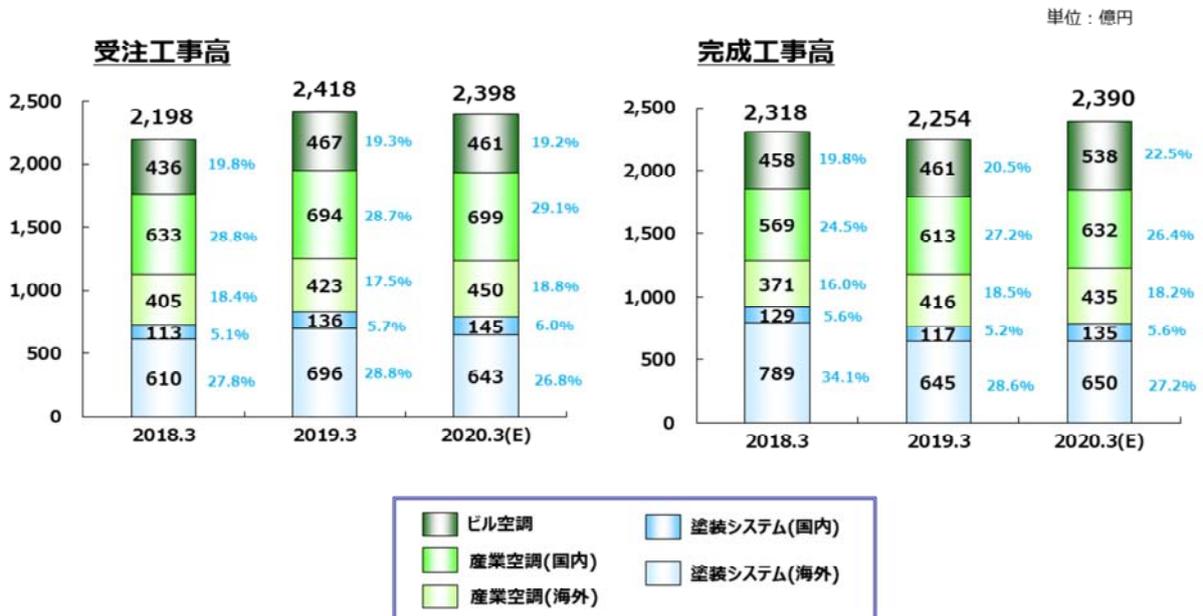
32ページは2020年3月期の業績予想となります。

上期の受注工事高と各利益項目は期初予想を上振れる結果となりましたが、通期の予想値は全項目とも変更しておりません。

理由につきましては、先程社長よりご説明した通り、世界経済の減速の影響によるリスクを考慮し、期初予想値を据え置かせていただきました。

5 2020年3月期業績予想

事業別予想値

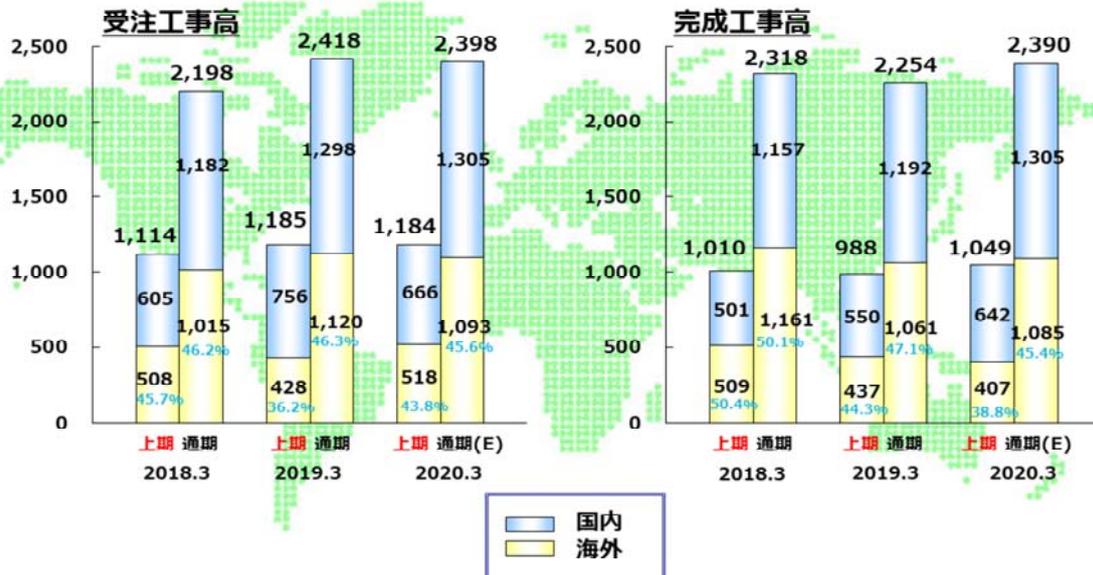


33ページから36ページは全社および各事業における受注工事高、完成工事高の業績予想をお示しておりますのでご参照いただければと思います。

5 2020年3月期業績予想

全社（国内／海外別）

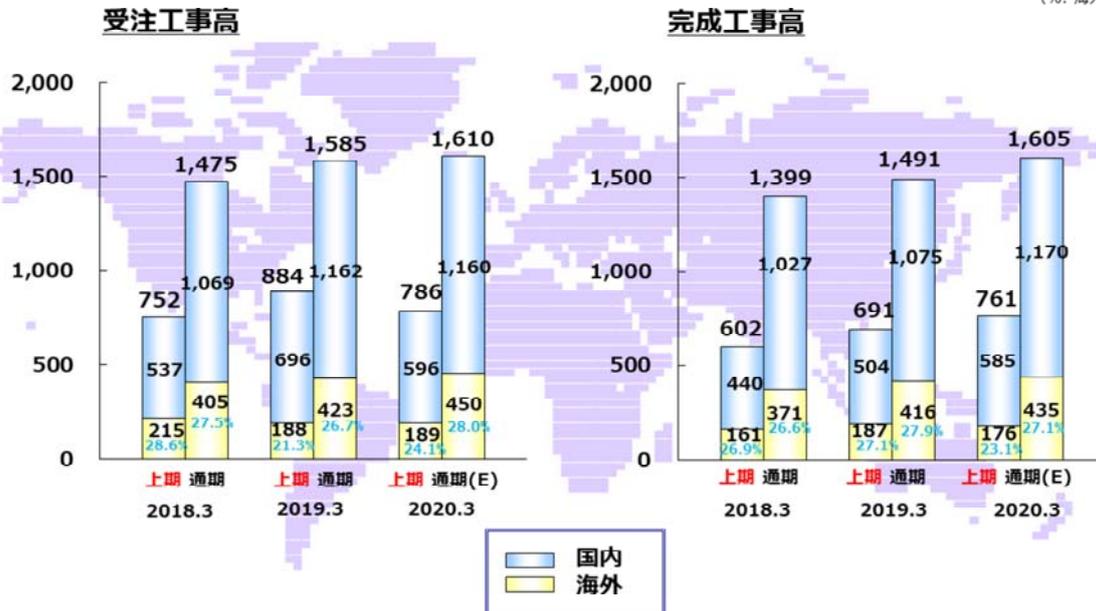
(単位:億円)
(%:海外比率)



5 2020年3月期業績予想

環境システム事業（国内／海外別）

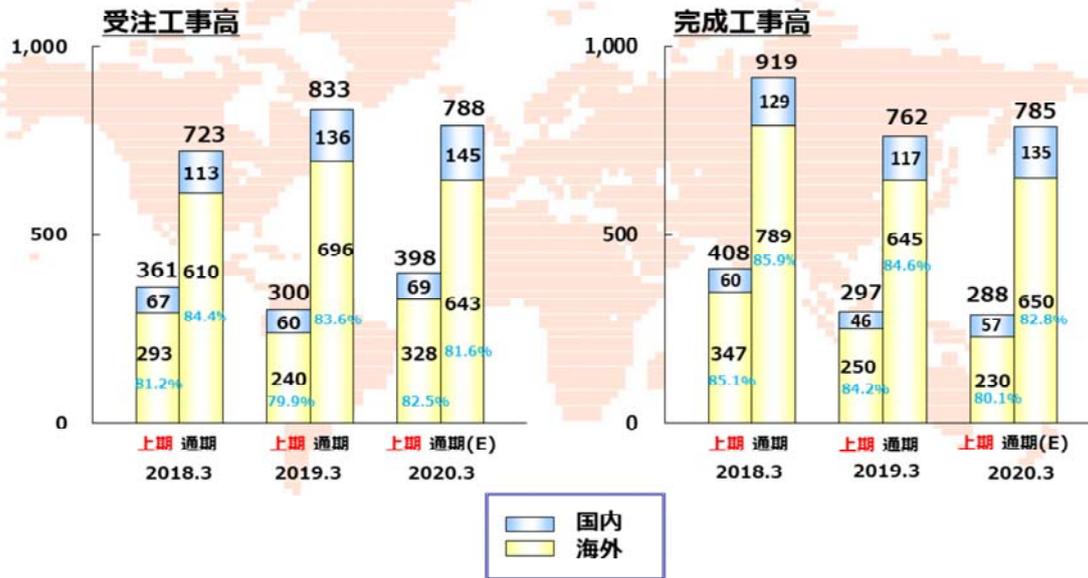
(単位:億円)
(%:海外比率)



5 2020年3月期業績予想

塗装システム事業（国内／海外別）

(単位:億円)
(%:海外比率)



6 株主還元
自己株式の取得・消却

取得実績				消却実績			
実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2005年12月	40	1,933	77	2008年 8月	1,200	1,593	1,912
2006年 2月	597	1,780	1,062	2018年 2月	1,700	2,443	4,154
2006年7,8月	500	1,401	700				
2011年 8月	300	1,576	472				
2012年11月	600	1,614	968				
2013年12月	800	2,170	1,736	<u>処分実績</u> (ESOPにて)			
2015年 5月	680	3,245	2,206	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2016年11月	356	2,805	999	2013年 2月	180	1,860	334
2017年11,12月	136	3,654	499				

37ページは、自社株式の取得・消却実績についてご説明いたします。

基本方針としましては、資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、自社株取得・消却を弾力的に実施していきます。

6 株主還元

当期純利益と配当の推移



・連結配当性向35%を目標とし、安定的な配当を実施する。

38ページにおいては、配当についてご説明いたします。

連結配当性向35%を目標とし、これまで通り安定的な配当を実施することを基本方針といたします。

なお、2020年3月期の年間配当は、1株につき100円を予定しております。

2. 中期経営計画（2019年度～21年度）の 各戦略における取組み

**続きまして39ページからは、中期経営計画の各戦略における取組みにつき
まして触れさせていただきます。**

長期ビジョン／数値目標／投資テーマ

「特色あるエンジニアリングを通じ、
最適な環境を創造するグローバルな企業グループを目指す」

技術

エネルギー・空気・水に関わる技術で、
お客様の多様なニーズを満たすエンジニアリング集団を目指す。

環境

先進的なソリューション技術でお客様の環境課題を解決し、
豊かな地球環境を未来へ引き継ぐことに貢献する。

人材

個人の創造性・多様性を尊重し、社員が自己の成長と働く喜びを感じることができる
風土を大切にします。

2022年3月期 数値目標

受注工事高	2,650 億円
完成工事高	2,600 億円
経常利益	160 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	100 億円
自己資本利益率 (ROE)	8 %以上
投資計画	200 億円

投資テーマ

投資金額 (計画)

技術開発力・提案力の強化／新規事業への取り組み推進
(研究開発施設の拡充など)

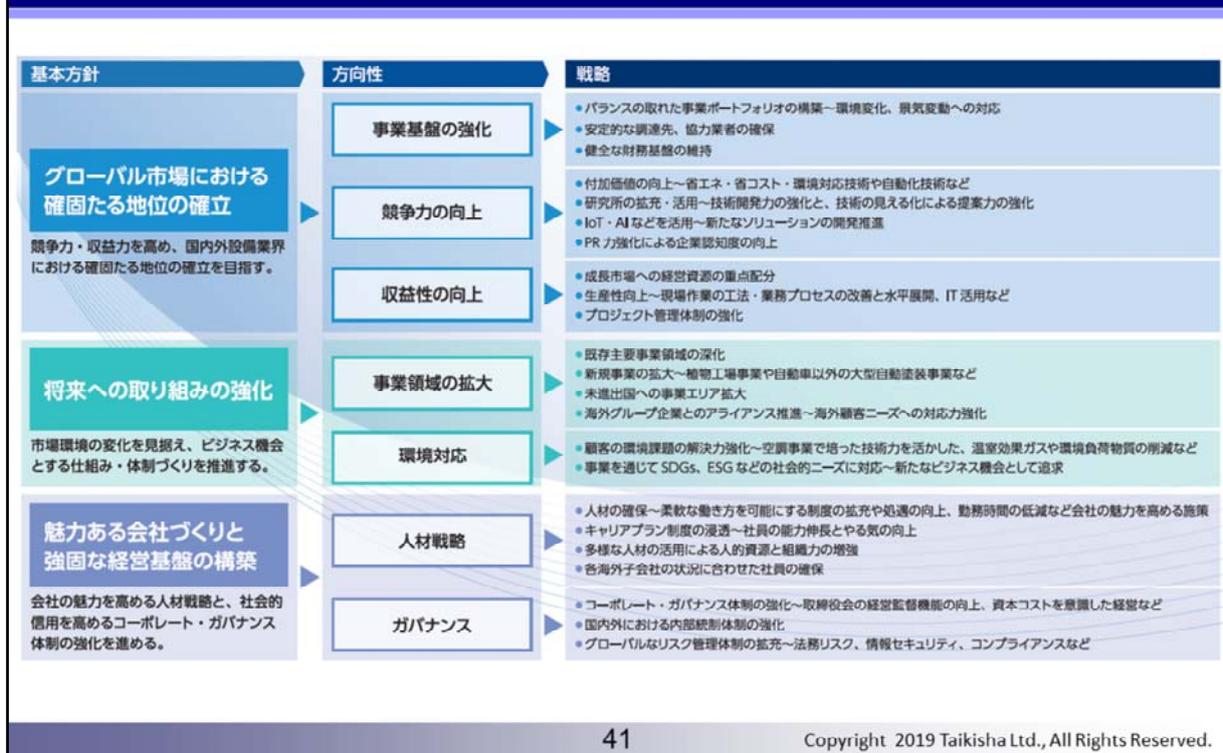
生産性の向上(ITの活用など)・人材開発

M&Aなど資本投資

200億円

40ページは本中計の『長期ビジョン／数値目標／投資テーマ』について記載しております。

基本方針と方向性・戦略



続いて41ページは『基本方針と方向性・戦略』について記載しております。ご参照ください。

各戦略における取組み ～今期の実績～

戦略：海外グループ企業とのアライアンス推進～海外顧客ニーズへの対応力強化

Encore社への100%出資

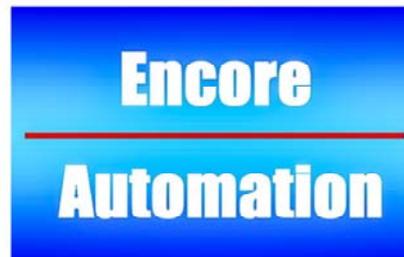
当社はこの度Encore Automation LLC社への出資比率を100%へ引き上げました。

Encore社との業務・資本提携は2014年6月の51%出資からスタートしました。

同社は大気社の塗装システム事業部のオートメーション事業所と同じロボットアプリケーションシステムのエンジニアリング会社であり、米国の自動車メーカー、航空機メーカーに対する豊富な実績があります。

これまでも同社との協業により、北米市場において、塗装システムのロボットアプリケーション事業の拡大、アフターサービス体制の拡充を進めてきました。

今後当社はEncore社と航空機塗装向け自動化システムなどの技術をさらに深化させ、グローバルに展開してまいります。



続いて42ページですが、中計の戦略の1つ、『海外グループ企業とのアライアンス推進』における実績としまして、
オンコア社への出資比率を100%に引き上げたことについてご報告させていただきます。

同社との業務・資本提携は2014年6月の51%出資からスタートしました。

これまでも同社との協業により、北米市場において、塗装システムのロボットアプリケーション事業の拡大、アフターサービス体制の拡充を進めてきました。

今後当社はEncore社と航空機塗装向け自動化システムなどの技術をさらに深化させ、グローバルに展開してまいります。

各戦略における取組み ～進行中の主な取組み①～

戦略	進行中の主な取組み
付加価値の向上 ～省エネ・省コスト・ 環境対応技術や自動化技術など	高塗着効率塗装システムの開発・商品化 CO ₂ 削減につながる、高塗着効率塗装システムの開発・商品化を推進中。
研究所の拡充・活用 ～技術開発力の強化と技術の見える化による提案力の強化	技術開発センター（愛川）の実証センター化 環境システム事業関連技術の顧客への提案を行う見学施設として再構築を検討中。
IoT・AIなどを活用 ～新たなソリューションの開発推進	IoT・AIを活用した工場の予兆保全システムの開発・事業化 IoT・AI を活用して稼働停止や品質不良発生時の要因解析を行うシステム「i-Navistar」の導入拡大に向け営業活動推進中。

43ページから46ページは各戦略における進行中の主な取組みについて記載しております。

順にご案内しますと・・・

（上記各戦略と進行中の取組みについて説明）

各戦略における取組み ～進行中の主な取組み②～

戦略	進行中の主な取組み
生産性向上	図面作画・積算業務の自動化システムの開発 図面の自動作画や自動積算のシステムを開発中。
新規事業の拡大 <small>～植物工場事業や自動車以外の大型自動塗装事業など</small>	植物工場自社工場建設 植物工場の量産・自動化技術の確立と実証、そして顧客への提案を行う施設の設立を検討中。 航空機・鉄道車両向け自動研磨装置の開発・事業化 初プロジェクトの受注に向けた営業・技術実証活動を推進中。
未進出国への事業エリア拡大	未進出国への拠点設立の検討 今後の投資が期待できる地域への新規拠点設立を検討中。

(上記各戦略と進行中の取組みについて説明)

各戦略における取組み ～進行中の主な取組み③～

戦略	進行中の主な取組み
<p>人材の確保 ～柔軟な働き方を可能にする制度の拡充や処遇の向上、勤務時間の低減など会社の魅力を高める施策</p>	<p>介護や育児に関わる休暇制度の見直し</p> <p>休暇期間の延長や必要な時に必要な休暇が取得できるような仕組みづくりを検討中。</p> <p>テレワークの導入</p> <p>在宅勤務やモバイルワーク、サテライト勤務など、テレワークを導入することにより、時間の効果的な活用とともに、休職中や既に退職している方への就労機会を提供する仕組みづくりを検討中。</p>
<p>多様な人材の活用による人的資源と組織力の増強</p>	<p>多様な人材の採用と活用</p> <p>女性活躍を推進すべく、ライフイベントに応じた柔軟な休暇・休職の取得や復職後の職務訓練指導を実施。また、政府が推進する70歳雇用への対応について検討中。</p>

(上記各戦略と進行中の取組みについて説明)

各戦略における取組み ～進行中の主な取組み④～

戦略	進行中の主な取組み
コーポレート・ガバナンス体制の強化 <small>～取締役会の経営監督機能の向上、資本コストを意識した経営など</small>	資本コストや資本・配当政策に関する検討の深化 企業価値向上を目指し、資本コストを意識した経営や資本・配当政策に関する検討を推進中。
国内外における内部統制体制の強化	ITに関わる内部統制体制の強化 グループ全体のITを健全に維持・監督する内部統制体制の強化に向けた対応を検討中。
グローバルなリスク管理体制の拡充 <small>～法務リスク、情報セキュリティ、コンプライアンスなど</small>	グローバルな情報セキュリティ対策の強化 海外子会社における情報セキュリティ対策の強化を検討中。

（上記各戦略と進行中の取組みについて説明）

今後も、半期毎の決算説明会において、進捗のご報告をさせていただく予定です。

私からのご説明は以上となります。

ご清聴いただき、ありがとうございました。

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社 管理本部 企画・広報課

TEL : 03-5338-5052 FAX : 03-5338-5195